

イチョウの木と銀杏^{ぎんなん}

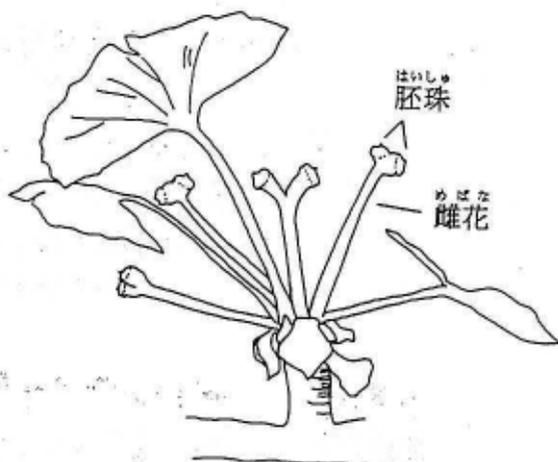
暑い日には、^{がいろじゅ}街路樹がつくってくれる木陰がとてもありがたいですね。^{がいろじゅ}街路樹にイチョウがよく使われていますが、イチョウが目立つのは秋です。地面に落ちた黄色の落ち葉や、^{ぎんなん}銀杏のいやなニオイでイチョウがあることに気づかされます。イチョウの実である^{ぎんなん}銀杏は、フライパンでいって、^{かう}かたい殻をむき、^{ちやうわんむし}茶碗蒸に入れたり、そのまま食べたりします。でも、^{ぎんなん}銀杏がなるのは、公園や、お寺、神社などにあるイチョウの木だけで、^{がいろじゅ}街路樹のイチョウにはめったになりません。

イチョウには、オスの木とメスの木の区別があります。^{ぎんなん}銀杏をつけるのはメスの木だけです。また、メスの木でも近くにオスの木がなければ^{ぎんなん}銀杏をつけることができません。^{がいろじゅ}街路樹になっているイチョウの多くはオスの木なので、^{ぎんなん}銀杏をつけないのです。

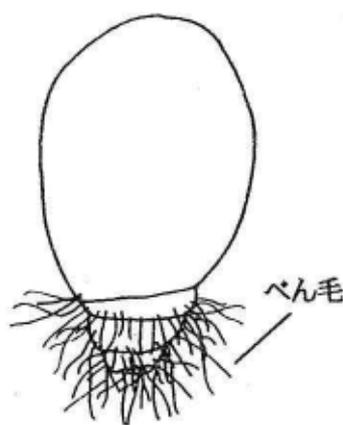
^{ぎんなん}銀杏が実る季節は秋ですが、花が咲くのは春です。4月頃、下の絵のように、オスの木は黄色い穂のような^{おぼな}雄花をつけます。^{おぼな}雄花からは花粉が出ます。メスの木は緑色のスマートな^{めぼな}雌花をつけます。^{めぼな}雌花の先には、^{はいしゅ}胚珠という将来は種子（^{ぎんなん}銀杏）になる部分があります。サクラやタ



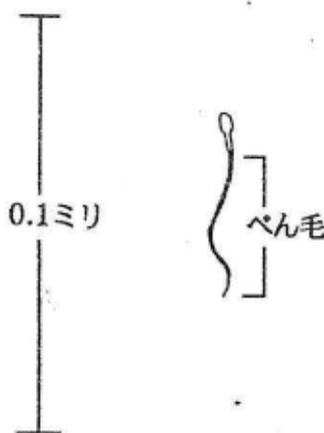
雄花



雌花



イチョウの精子



ヒトの精子

タンポポなどの花は、この胚珠がめしべの中に入っています。イチョウの雌花にはめしべも花びらもなく、胚珠がむき出しになっていて、花らしく見えません。

ところで、イチョウにも動物のオスのように精子があることを知っていますか？ 上の絵の左側の虫みみたいなのがイチョウの精子で、右のオタマジャクシのようなのがヒトの精子です。

春、雄花から出た花粉は風によって、雌花の胚珠まで運ばれます。胚珠の入口で、花粉は根のような花粉管を胚珠の壁にのぼしてメスの木から栄養をもらいながら成熟します。そして9月頃、精子が花粉管の中にできます。イチョウの精子は花粉管から出て、胚珠の中央にある卵まで、ヒゲのようなべん毛を動かして泳ぎます。精子が卵の中に入り、合体、受精すると卵は受精卵となり、新しい生命へと育っていきます。私たちが食べている銀杏は、この受精卵が大きく育った種子なのです。

精子を持つ植物は、イチョウの他に、ソテツやシダなどがあります。サクラやタンポポなどには精子がありません。サクラやタンポポなどの花粉は花粉管を卵にまですのぼすので、泳げる精子を必要とせず、精子にかわってべん毛を持たない精核が花粉管から出て、卵と合体、受精します。

(坂井奈緒子)



富山市科学文化センター

〒939富山市西中野町1-8-31 TEL(0764)91-2123

平成7年9月1日発行